

「探究的な学習で育つ子どもの姿」～「なるほど・THE・保育園」の実践を通して～

札幌市立新琴似南小学校

教諭 丹羽 洋彦

■ 1 はじめに

本発表では、「探究的な学習によって子どものどのような力が育つか」「探究的な学習を展開するために、子どもにどのような学びを体験させるべきなのか」という点について、5年生の「なるほど・THE・保育園」の実践を通して発表していく。「保育園・幼稚園児との交流」は、5年生の総合的な学習の時間で扱われることが多いと思われるが、「交流」が目的となり探究的な学習が成立しているのか不透明な実践があるようと思われる。そこで、この実践では、「保育園児との交流」は課題解決の「手立ての一つ」として扱うこととした。詳細はこの後に説明していくが、現在進行中の実践であるので、今回の発表を通して、参会者の先生方にご意見をいただき、より良い実践にしていきたい。

■ 2 実践の概要

(1) 単元の構想段階で考えたこと

単元の構想にあたり、以下のようなことを考えた。

■保育園の様子を観察することによって浮かんできた素朴な疑問を整理・分析することを通して、自分の「目の付け所」を明らかにする。
→保育園・保育園児に対するイメージを明らかにすることで、新たに「保育園観」が生まれてくる…。その「保育園観」を確かめるために、園児の様子を観察したり保育士の行動を観察したりすることを通して、保育園での教育で大事にしていることや保育士の思いに迫り、園児との関わり方を考えていくことで、他者との関わり方も考えるようにしていきたい。

■保育園児との交流活動を通して、幼い子どもと関わる際には、できるだけ幼児の思いを汲み取ることが大切であることに気付くことで、相手の立場を考えて発言・行動する態度を身に付けるとともに、人と関わることのよさを感じる。
→自分自身の見方・考え方の変容に気付くことで、「自分って結構いいこと考えるんだな」「今まで考えもしなかったことを考えて人に接するようになったな」と、自己肯定感を高めたり人との関わり方をより意識したりするような子どもになってほしいな…。

・保育園での保育士と園児との関わりを見つめ、様々な園内施設の意味を探り

ながら、誰もが安心して生活できるようにするための工夫や努力について考えていく。

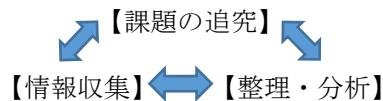
→保育士の園児への関わり方を見つめ、どのような意図をもって子どもに関わっているのかを探ることで、これまでの自分の成長に多くの人の支えがあり、思いがあったことを知るとともに、他者に対する接し方を考えるきっかけになるようにしていく。

探究のプロセスと関連させてみて…

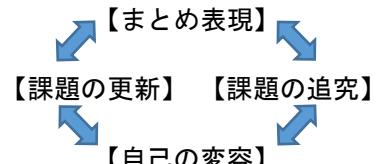
まずは、「保育園」「保育園児」を見つめる段階が必要だ！



保育士の姿や様々な施設から「意味」を探る段階が必要だ！



園児との関わりを通して、他者との関わり方を考える！



※構想段階で、探究のプロセスを意識してみることも…

(2) 単元について

授業をするにあたり、大事にしたいことをまとめてみた。この中に、探究的な学習の様子を入れているつもりである。

① 「見えなかったものが見えてくる」 総合

総合的な学習の時間で大切なのは、「見えなかったものが見えてくる」ことである。事象そのものに目を向けるとともに、その事象の背景を考えたり、事象同士の関連に目を向けたりしながら新たな見方・考え方へ至るような学習を展開することにより、知の構造化が図られ、深い学びに向かうものと考えている。

【保育園ウォッチング】

【たくさんの疑問から課題へ】

【見えない「つながり」を見いだす】

② 「想像力」を働かせ自分の内面を見つめる

子どもの成長を考える際には、「想像力」にも目を向けたい。原因と結果について考えることが日常でも大事になってくる。そこで、「保育園ウォッチング」を本単元の課題を設定する段階に位置付けた。目に飛び込んでくる事象に対して、想像力を働かせながら予想し、それを課題把握・決定につなげていくのである。自分が何を見つめ、何に注目し、何に疑問をもち、どんな予想をしたのかを自覚的に捉えるために振り返りシートの活用や友達との意見交流の時間を保証する。それにより、子どもの中に「保育園観」が醸成され、探究するべき課題を子どもが見通してけるようになるものと考えている。

【何を見つめているのか】

【疑問⇨予想⇨解決の見通し】

【課題把握から課題追究へ】

③ 「人との関わり方」を見つめ直す

保育園児との交流は、「人との関わり方」を改めて考えるきっかけにしてきたい。人を育てるという保育士の姿から学ぶべきことは多くあり、保育園内の環境も、子どもの成長を促す工夫がたくさんある。保育園の設備や教育活動、保育士の思いや願いに迫ることで、「相手のことを考えながら人と接する」ということを考え、これまで自分の成長に関わってくれた多くの人に対する思いを新たにする子どもの姿を目指している。

【保育士の姿⇨関わり方の好例】

【保育士の行動⇨保育士の思い】

【安全・安心・よりよい成長】

④ 「未来の自分」のために

多くの子どもが、いつかは人の親となるだろう。保育園児や保育士の姿に触れることで、「小さな子どもに関わる」ということの良いイメージを5年生のこの時期に捉えることで、よりよい大人へとつながるような学習にしたい。

【よりよい自分を目指す】

【よりよい姿を考える】

【よりよい行動とは…

自分への問いかけ】

・・・ 探究 ・・・

(3) 単元構成と授業の実際

先日授業公開した際の「単元構成」と「本時案」を参考までに載せておく。

① 単元の目標

- ・保育園の様子を観察することや保育園児との交流を通して、自分を見つめ友達の考えに触れる学習活動が、幼児をはじめとする「人との関わり方」に対する見方・考え方を変えていくこと知る。

【知識及び技能】

- ・「保育園ウォッチング」で見付けたことや疑問を、保育士の思いや願いと関連させながら解決していく学習を通して、相手意識をもって他者に関わることのよさや難しさ感じ、その思いを表現しながら課題の解決に向かうことができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・「保育園の秘密を探る」活動を通して、何を調べることが秘密を探ることにつながるのかを常に意識し、探究活動の方法や方向性を振り返りながら、よりよい課題解決につなげようとしている。

【学びに向かう力・人間性等】

② 評価規準

- ・保育園の様子を観察することで見付けたことや疑問を交流しながら人との関わり方を考えている。

【知識・技能】

- ・保育士の園児への関わり方を参考に、人と関わる時に大事な要素について考えながら課題の解決に向かっている。

【思考・判断・表現】

- ・何を調べることが保育園の秘密に迫るのかを意識しながら、様々な角度から保育園や保育士の姿と自分の学びとの関係に目を向けている。

【主体的に学びに向かう態度】

③ 単元構成

■保育園ウォッチング（6時間）

- ①保育園の印象、保育園ウォッチングで見たいことをメモ（事前の準備）する。
- ②保育園の様子を観察する。
 - ・保育園の子どもの様子。
 - ・先生の園児への関わり方。
- ③保育園ウォッチングの振り返り。
 - ・「見付けたこと」「疑問」「もっと知りたい」を明らかに。
- ④「保育園を探る」に迫るために…。
 - ・何を調べることが単元を通しての課題となり得るかを検証し課題を設定。

■保育園児との交流に向けて（8時間）

- ①保育園ウォッチングの2回目を実施し、課題の解決を目指しながら、保育園児とどう関わるべきなのかを考える素地を身に付ける。
- ②保育園児との交流の準備をする。
 - ・これまでのウォッチングを基に、どう関わればよいのかを想定。
- ③保育園児との交流に向けて、園児とともに活動する。
 - ・保育園にてミニ交流
 - ・ミニ交流の振り返り。
 - ・行ってみて初めて分かることの自覚

【体験の重要性実感】

■よりよい保育園児との交流に向けて（4時間）

- ①1回目の保育園児との交流を受けての思いを明確にする。
 - ・保育園児が喜んだことを思い起こしたり、もっとよりよくしたいと思いを新たにしたり…。
- ②保育園士から評価をいただく。
 - ・保育園児へ関わる際の保育士のスタンスを語っていただく。子どもは新たな気持で、新たな視点をもつ。
- ③保育園児との2回目の交流にチャレンジする。
 - ・2回目の交流を実施するにあたり、1回目との改善点などを明らかにしながら、目的意識を明確にして計画。

■保育園児との交流で得たこと…

（4時間）

- ①当初の保育園・保育園児に対する見方・考え方からの変化をまとめる。
 - ・自分の保育園・保育園児「観」の変容の自覚。
 - ・保育園児にとどまらず、「人と関わる」ことにつながる学びがあつたかどうかを確かめる。
- ②6年生になった時の1年生と交流する自分の姿を思い描く。
 - ・人との関わり方、自分の振る舞い方に目を向ける。

④ 本時の展開

- 保育園ウォッチングを通して見付けた保育園の様子について交流しながら、保育園の秘密を探る上で何を追究していけばよいのか、どのような方法で追究することができそうなのかを考えることができる。

【思考・判断・表現】

過程	学習活動	教師の関わり
導入 〔前時からの続き〕	<p>【前時まで】保育園ウォッチングの振り返りを基に、「見付けたこと」「疑問」「もっと知りたい」ことを付箋に書き出しながら、「保育園の秘密」と思われるものを選び出し、ランキング形式で整理している段階である。</p> <p>○ランキングの結果を交流しよう！【単なる秘密ランキング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ドアの色が違う…何か工夫がありそう！(根拠)何か秘密がありそうだから… 2歳児から5歳児までの部屋がつながっている！(根拠)つながっているのが珍しいから <ul style="list-style-type: none"> 園児はとても静かに活動している！(根拠)小学生よりも静かな気が… 先生は笑顔で優しい感じがしたよ！(根拠)ずっと笑顔ですごいから <ul style="list-style-type: none"> 自分の給食を自分で盛り付けていた！(根拠)小さいのにすごいと思ったから みんな仲良く過ごしている感じだったよ！(根拠)喧嘩とかしないさうだから <p>○これで「保育園の秘密」に迫れていると言えるか！？</p> <p>【根拠→「予想⇒新たな疑問」→課題設定へ】</p> <p>他の工夫をもっと知つて…その理由が分からないと…</p> <p>先生たちがどんな風に関わっているのかもっと知らないと…</p> <p>園児の活動をもっと知らないとだめかも…</p> <p>もっと 知りたい！ もっと 知らなきゃ！ → でも…何を？ どうやって？</p> <p>調べていくことをもっとはっきりさせないと！</p>	<p>○互いのランキングの結果を根拠とも合わせて交流し、途中途中で自分のランキングを見直すことも可能であることを伝える。</p> <p>※ランキングは自分の目の付け所を自覚する手立てであり、これらを基に後の課題設定へつなげていく。</p> <p>↓</p> <p>※共感できるものにはシールを貼るのは、多くの見方や根拠に触れるため。</p>
フリー交流	<p>○「見付けただけで秘密に迫ることになるのか」を問い合わせ、子どもが書いた「根拠」に改めて向き合うようにすることで、追究すべき事柄をより具体的に考えるようしていく。</p> <p>↑</p> <p>※子どもの中には、「安全」「先生の思い」などに触れている子どもがいる。交流を通して、こうした見方にも触れる機会を設けることにより、子どもも同士が納得した上で、次の活動へ進むようにしていく。</p>	
全体交流	<p>○「何を調べていこうと思うか」「誰の考えがきっかけになったのか」を振り返りに書くようにする。</p>	
フリー交流 ・ 個の活動 ・ 振り返り	<p>・保育園にある物は安全に気を付けているはず…。 →<u>安全</u>対策をもっと調べれば…</p> <p>まずは、何があるのかを<u>もっと見付けて</u>…その理由も予想して…園長先生に聞こう！</p> <p>・担任はいつも説教するけれど、保育園の先生はしないのかな→叱ったりすることがないのかを聞けば…<u>先生の思い</u>が分かるかも！</p> <p>保育園の先生がどんな様子で話しかけているのか聞いてみて…<u>きっと</u>園児に考えて行動するように言つてるかも…</p> <p>・園児の活動の様子が一部しか分かってない→<u>1日の生活</u>や<u>1年の行事</u>などを知れば…秘密が…</p> <p>園児の歳によつても違いがありそう…そういうことを<u>もっと考え</u>ないと秘密には迫れないかな…</p> <p>○振り返り⇒振り返りの交流【課題がより明確になってくる】</p> <p>「保育園の秘密」に迫るために 何を調べればよいのか少し見えてきたよ！</p>	

■ 3 探究的な学習に向かうための方策と子どもの姿

(1) まずはよく見ること！そして「？」を見付ける

探究的な学習を展開するためには、自分が対象の「どこを見つめ」「何に興味をもち」「どんな疑問をもっているのか」を子ども自身が自覚していくことが必要ではないかと考えている。

① 何よりも「見る」ことが大事

先にも述べたが、総合的な学習の時間は、それまで「見えていなかったものが見えてくる」学習であると考えている。つまり、意識していなかった物事を明確に捉えることで、知が新たに構築されるという考え方である。

保育園の見学の際には、前段階である程度「何があるのか」「どんなことをしているのか」は予想していったので、子どもはある程度見るべきポイントを絞っており、予想もできていたが、実際に「保育園ウォッチング」をしてみると、数多くの発見があることに子ども自身がおどろいていた。実際に「見る」という「体験」をすることで得られる情報の多さに驚くとともに、自然と「先生なんでこんなものがあるの？」などといった疑問の声が数多く挙がっていた。

何の目的も無しに見学に行けば見過ごすことも数多くあるだろう。

今回は、「保育園児との交流に向け、保育園児の日常を見ることで、何かヒントが得られるはず」といった目的により、子どもはかなり短い時間ではあったが、数多くの情報をキャッチしていた。

② 付箋に書き留める

教室へ戻り、疑問に思ったことを、現地で書いたメモを基に、さらには、保育園の様子を思い返しながら、「発見したこと」「疑問に思ったこと」などを色別に分けて付箋に書き記していく。

ここで大事になるのが、「頭の中にあることを全部出す」つもりで付箋に書くことである。頭の中だけで考えるのではなく、それをいったん付箋に書き、表出することによって、子どもは「自分の目の付け所」を自覚していくことになるのである。

付箋ではなく、裏紙などをカードサイズに切って使用してもよいだろう。大事なことは、「思考を見える化」することである。

③ 「何となく…」は×

「発見したこと」「疑問に思ったこと」などを付箋に書いたが、実際には「発見したこと」と表一体で「疑問」が存在する。「全部の部屋がつながっていた」という発見は、裏を返すと「なぜ、部屋がつながっているの？」という疑問になるのである。こうしたように子どもに投げかけていくと、子どもは「きっと…だからじゃないかな？」と予想をするようになる。つまり、「何となく見付けた」物やことが、実は「何となくでは済まされないもの」になるのである。こんなことでも、子どもにとつては新鮮な学びのようで、「きっとさ…」「もう一回見て見ないと」「もっと見ればよかった」など様々な反応を示す。すでに、探究の入り口に差し掛かった状態ともいえるのではないだろうか。

この段階が、「見えていなかったものが見えてくる」ことの一例である。ここでは、自分との対話が繰り返されているといえる。

(2) 「？」を集めて課題の設定へ

たくさんの疑問とそれに対する予想が子どもの目の前に並んだ状態になる。色別に書かれた付箋は、A3の用紙にいっぱいに貼られている。この状態になった後は、学級の仲間と交流をしながら、徐々に課題の設定へと向かうことになる。

① 見方・考え方の交流と共有

教室中を歩き回り、友達の付箋を見る活動により、自分の見方・考え方と友達のそれとを見比べながら、自分の見方・考え方自信をもったり、友達の見方・考え方を自分に吸収したりしながら、保育園に関する様々な物事への興味・関心をもつことになる。

交流の際にはシールを与え、「よいと思ったもの」「賛同できるもの」「参考になったもの」などといった観点で友達の付箋に貼るようにしていく。これは、より多くの見方・考え方に対する触れさせるためであり、シールというアイテムに、意外と子どもは楽しんでいるようでもある。

同じ教室で学ぶ仲間が、どのような見方・考え方をしているのかを知ることも大事なポイントである。「保育園の秘密を探ろう」というテーマに対して課題を設定し、これから追究を進めていくとき、情報を共有しながら探究していくことも大事になるからである。

保育園のことを学ぶことを通した総合的な学習の時間の目標を達成するだけではなく、学ぶことの楽しさ、様々な考え方があることの面白さを感じながら学ぶことにより、将来に渡り、人と協働して物事に取り組む素地が育まれるものと考えている。

② 緩やかに絞り込んで…課題へ

いよいよ課題の設定である。数多くの疑問や予想、そして、友達の見方・考え方に対する触れることで違う見方・考え方にも目が向き始めた子どもは、徐々に「自分の目の付け所」を自覚していくようになる。

ここに至るまでには、自分の疑問や予想、興味の在り所などを数多くの付箋の中から絞り込んでいく必要がある。まずはランキング形式で4～5項目に絞る。2～3時間かけて、友達とも適宜交流しながら、少しずつ少しずつ絞り込んでいく。絞り込んでいく中で、教師は「それを調べることで保育園のどんな秘密に迫れるのか」などといった問い合わせをする。すると、子どもは「安全・安心」「園児への思い」「保育園で大事にしていること」などといった、自分が保育園の何に注目しているのかを自覚させる関わりをしていく。また同時に、「それをどうやって明らかにするのか」を考えていくような関わりにより、子どもは追究の見通しを明確にした上で、課題を設定していくことになった。

総合的な学習の課題は、子どもの内で練りに練って出されるものではないかと考えている。そのためには、練るだけの材料が必要であり、それが先にも述べた「たくさんの疑問と予想」ということになる。

聞いてすぐに分かるような「一問一答的」なものは課題とはならないだろう。今回の実践であれば、「保育園の部屋がつながっている」という発見を基に、「安全を見守るように」「みんなが仲よくするように」などの予想が生まれた。そこから「保育園では園児の安全・安心を考え、どのような取り組みをしているのか」といった課題が生まれた。その課題を解決するために、子どもが目を付けてきた「つながっている部屋のこと」「保育士の数」「保育士の思い」「数ある安全対策」などを明らかにしていく。これらはまた、全て「保育士の思い」につながると考える子どももいれば、「安全・安心」を重要視して捉える子どももいるはずである。答えがあるわけではなく、子どもが納得した解を得ることが大事であり、その過程にこそ探究の学びが存在するものと考えている。

■ 4 子どもの姿で語る

本実践は進行中ということもあり、今回の発表では課題設定までの具体でしかまとめることができなかつたが、課題がしっかりと子どもの中にあることが探究的な学習では重要なことであると考えている。

(3) 総合的な学習の時間における子どもの姿

最後に、探究的な学習を通した子どもの姿として「書く」ということと関連させて述べていくことにする。

① とにかく書けるようになる

これまで総合的な学習の時間を通して見てきた子どもは、かなり「書ける」と思っている。実際、隣の学級担任が「総合をやるとこんなに書くようになるんですね」と話していたので、私だけの感想ではないだろう。

先にも述べた「付箋」の効果はかなり高いものでと言える。付箋に書いて表出することで、自然と「思考が構成」されていくのだろう。今の学級では、付箋に書いた後は、きちんと文章で書くことをしている。1学期はそれほどでもなかったが、今では、ほとんどの子どもが10分程でA4一枚にびっしりと自分の考えや思いを書くことができるようになってきた。書かせてはいるが、無理やり「一枚びっしりに書きなさい！」などの指導はしていない。書きたいことがたくさんある！といった子どもの反応がほとんどである。

② 書くことで思考を整理・再構成

書くとなれば「何となく…」は通用しない。「何となく…」では何も書けない。つまり、書くということは、子どもの思考がかなり明確な状態にあると言えるのではないだろうか。実際、書く活動を経た子どもは、とにかく「語る」ようになる。繰り返しになるが、「語れるだけ考えが明確である」のである。

既存の知識を暗記し、それを説明するという類のものではない。子どもが自ら課題を設定し、自ら追究し、友達の意見や時には大人の意見を聞き入れながら、よりよい「解」、納得できる「解」に到達するといった探究的な学習をしたからこそその「語り」なのである。

このように、探究的な学習をすることで得た資質・能力は、他の教科でも発揮されている。学習することへの意欲の高まり、仲間と学ぶことのよさや楽しさの実感が「学校が楽しい」という思いにもつながっている。また、自分の疑問や予想を付箋に書く際には、書いた内容に対して「正誤」を問われることもなく、ある程度自由に「自分を出せる」ことも、学びの意欲へつながっている者とも考えている。

■ 5 終わりに

4月のはじめ…。なかなか学習に向き合えない子ども。授業参観も何だか騒がしいまま終了。学習規律は一からやり直し。こうした学級・学年ではあったが、総合的な学習の時間を中心に、各教科・領域の学びを総合的な学習の時間と関連させながら、また、子ども主体の学びの在り方を探りながら、日常でも子ども主体の取り組みを行う中で、徐々に子どもの姿は変わり…。

今では、自習で総合的な学習の取り組みをさせて、目的をもって学習に向かう姿、自由交流ではいろんな友達と意見交流する姿があり、総合的な学習の時間の効果を実感しているところである。